



横浜市西区藤棚町 2-197

神奈川県教職員組合 発行人 芹沢 秀行 編集責任 臼井 千浪



http://www.ktu.or.jp

No.715

2017. 1. 1

年頭のご挨拶

教育予算要求知事交渉

ちょっと拝見地区教組

新たな年を迎えて

二〇一七年新春に思う

多様な価値観が大切にされる年になることを願って

神奈川県教職員組合

執行委員長

芹沢 秀行



えます。

学校が社会の鏡であることを考えれば、雇用不安、経済的格差の拡大や自己責任論が広がっている今の状況が学校にも反映されることは言うまでもありません。

一九九〇年代以降「ヒト・モノ・カネ情報」のグローバル化、ボーダレス化が急速にすすむ一方、人種・国籍・思想・歴史・文化等の違いを乗り越え、誰もがその背景に寄らず、人として尊重される社会の構築が求められてきました。これを教育課題として整理すれば、「さまざまな地球規模の課題」平和・環境・人権・貧困の解決にむけて地球に暮らす一員として、日々の生活の中で考え、自分に出ることを自分なりに行動していく「子どもを育てていく」ことに大きな着目が見えてきました。

二〇一六年には、イギリスのEU離脱、アメリカ合衆国におけるトランプ大統領の誕生等、私を含め、選挙結果が出るまでは、国民がそのような選択を最終的にはしないであろうと思っていたものにとっては、大きなショックとなる事柄が起りました。その原因のひとつは、過度にすすんだ経済のグローバル化による富の偏在が国内内部の富の偏在を招き、自国優先主義、至上主義が、多くの人々から共感を得たとも言われています。

二〇一六年には、イギリスのEU離脱、アメリカ合衆国におけるトランプ大統領の誕生等、私を含め、選挙結果が出るまでは、国民がそのような選択を最終的にはしないであろうと思っていたものにとっては、大きなショックとなる事柄が起りました。その原因のひとつは、過度にすすんだ経済のグローバル化による富の偏在が国内内部の富の偏在を招き、自国優先主義、至上主義が、多くの人々から共感を得たとも言われています。

二〇一六年には、イギリスのEU離脱、アメリカ合衆国におけるトランプ大統領の誕生等、私を含め、選挙結果が出るまでは、国民がそのような選択を最終的にはしないであろうと思っていたものにとっては、大きなショックとなる事柄が起りました。その原因のひとつは、過度にすすんだ経済のグローバル化による富の偏在が国内内部の富の偏在を招き、自国優先主義、至上主義が、多くの人々から共感を得たとも言われています。

二〇一六年には、イギリスのEU離脱、アメリカ合衆国におけるトランプ大統領の誕生等、私を含め、選挙結果が出るまでは、国民がそのような選択を最終的にはしないであろうと思っていたものにとっては、大きなショックとなる事柄が起りました。その原因のひとつは、過度にすすんだ経済のグローバル化による富の偏在が国内内部の富の偏在を招き、自国優先主義、至上主義が、多くの人々から共感を得たとも言われています。

二〇一六年には、イギリスのEU離脱、アメリカ合衆国におけるトランプ大統領の誕生等、私を含め、選挙結果が出るまでは、国民がそのような選択を最終的にはしないであろうと思っていたものにとっては、大きなショックとなる事柄が起りました。その原因のひとつは、過度にすすんだ経済のグローバル化による富の偏在が国内内部の富の偏在を招き、自国優先主義、至上主義が、多くの人々から共感を得たとも言われています。

二〇一六年には、イギリスのEU離脱、アメリカ合衆国におけるトランプ大統領の誕生等、私を含め、選挙結果が出るまでは、国民がそのような選択を最終的にはしないであろうと思っていたものにとっては、大きなショックとなる事柄が起りました。その原因のひとつは、過度にすすんだ経済のグローバル化による富の偏在が国内内部の富の偏在を招き、自国優先主義、至上主義が、多くの人々から共感を得たとも言われています。

ンテーション農業のありかた「ファストフードのハンバーガー」、企業型農業のあり方や食物連鎖「割り箸」熱帯森林の消滅、地球温暖化等の教材・単元として展開されていきました。

どの実践も「モノ」に直目して、「モノとモノ」「モノとヒト」をたぐっていく中で、子どもたちが自身が見る社会のしくみを見出し、その中で、子ども自身が、それらのことに参加できるよう、ゲーム・ロールプレイ・ディベート・シミュレーション等を取り入れた参加型の授業が展開されました。

二一世紀になれば、地球の課題は国境をこえた世界共通の課題となり、その解決にむけて大きな歩みとなることが期待されています。しかし、現実には宗教や民族の対立、そこに資源開発の経済的利益の追求や軍事的戦略が絡み合い、それを原因とする紛争や戦争が拡大していきましました。さらに世界どこにいても「テロ」という事態に遭遇しかねない国際的な危機が進行している状況です。経済先進国における格差の拡大は、国内危機を発生させています。

このような状況があるうに、私たちは教育という営みに携わるものとして、子どもたちの未来を作り上げていく責任があります。私たちが、多くのみなさんとともに声をあげていく中で、ようやく給付型の奨学金制度の成立や地域における子ども食堂や放課後の学習支援も拡大しつつあります。

神奈川県では、「津久井やまゆり園」において発生した大変痛ましい事件が二

度と繰り返されることがないよう、「ともに生きる社会かながわ憲章」が策定されました。黒岩知事を先頭に県議会も断固とした決意をもって、ともに生きる社会の実現にむけて、とりくんでいくことが確認をされています。この憲章の理念の実現には、更なる実効性を持つ条例の作成なども必要となると考えます。

それと同時に、神奈川県内のすべての公立学校においてインクルーシブ教育の推進がはかられることが極めて重要です。そのシンボルとも言える、小中学校において

「みんなの教室」事業や障害がある生徒の高校入学をすすめるための入試選抜や教育課程、進路保障などの研究に先進的にとりくむ「パイロット校」事業などに、教職員組合の組合員一人ひとりが積極的に関わること、その内容の検証、改善を求めていくことが重要です。二〇一七年という年が、一人ひとりの子どもと大人が大切にされる人権感覚に満ちた社会にむかっていくことを強く願い、神奈川県教職員組合としてなし得る最善の努力を行っていきたいと思います。

憲法を守り、活かすたたかいは！

かながわ民主教育政治連盟

会長 江成直士



神教組・各地区教組に結集されるみなさま、新年おめでとうございます。

かながわ民主教育政治連盟は、昨年の「アベ政治を許さない」参院選挙の必勝！を合言葉に、神教組・各地区教組と強く連携して戦い、組織内候補・那谷屋正義参院議員の三期目当選を勝ち取りました。

また、かながわ民主教育政治連盟は、子どもをとりまく諸問題の解決、教育諸条件の拡充を第一のテーマとして、それぞれの議会活動を精一杯すすめてまいりました。そして、子どもたちの豊かな学び・育ちは後景に追いついていくことが確認をされています。この憲章の理念の実現には、更なる実効性を持つ条例の作成なども必要となると考えます。

それと同時に、神奈川県内のすべての公立学校においてインクルーシブ教育の推進がはかられることが極めて重要です。そのシンボルとも言える、小中学校において

「みんなの教室」事業や障害がある生徒の高校入学をすすめるための入試選抜や教育課程、進路保障などの研究に先進的にとりくむ「パイロット校」事業などに、教職員組合の組合員一人ひとりが積極的に関わること、その内容の検証、改善を求めていくことが重要です。二〇一七年という年が、一人ひとりの子どもと大人が大切にされる人権感覚に満ちた社会にむかっていくことを強く願い、神奈川県教職員組合としてなし得る最善の努力を行っていきたいと思います。

度と繰り返されることがないよう、「ともに生きる社会かながわ憲章」が策定されました。黒岩知事を先頭に県議会も断固とした決意をもって、ともに生きる社会の実現にむけて、とりくんでいくことが確認をされています。この憲章の理念の実現には、更なる実効性を持つ条例の作成なども必要となると考えます。

それと同時に、神奈川県内のすべての公立学校においてインクルーシブ教育の推進がはかられることが極めて重要です。そのシンボルとも言える、小中学校において

「みんなの教室」事業や障害がある生徒の高校入学をすすめるための入試選抜や教育課程、進路保障などの研究に先進的にとりくむ「パイロット校」事業などに、教職員組合の組合員一人ひとりが積極的に関わること、その内容の検証、改善を求めていくことが重要です。二〇一七年という年が、一人ひとりの子どもと大人が大切にされる人権感覚に満ちた社会にむかっていくことを強く願い、神奈川県教職員組合としてなし得る最善の努力を行っていきたいと思います。

謹賀新年

かながわ民主教育政治連盟

会長

相模原市議会議員(中央区)

江成直士

副会長

神奈川県議会議員(横浜市南区)

岸部都

事務局長

元神奈川県議会議員

山村幸雄

事務局次長

藤沢市議会議員

竹村雅夫

事務局次長

檜垣明宏

横浜市議会議員(港北区)

川口珠江

横浜市議会議員(泉区)

麓理恵

横浜市議会議員

露木明美

横浜市議会議員

長谷川昇

横浜市議会議員

吉川和夫

鎌倉市議会議員

竹田ゆかり

厚木市議会議員

新井啓司

小田原市議会議員

安藤孝雄

* 参議院議員(比例区)

那谷屋正義

ことしも かんばります

年頭のご挨拶

現場からの教育改革に全力で！

神教組のみなさま、新年明けましておめでとうございます。
 銀杏の葉がまだ多く残っている昨年11月に、東京で初雪を観測しました。54年ぶりのことだそうで、自然の変化に日本固有の四季の味わいがどんどん薄れることに寂しさと、「このままでいいのか」という心境の中で、第192回臨時国会では、TPP協定と関連法案、年金カット法案、カジノを容認するIR法案と国民生活に直結する課題・制度が国民不在の審議の中で、与党の数の暴挙によって成立してしまいました。
 過去にも例の少ない臨時国会の再々延長。しかも1議員立法（国民の疑問や反対の声が多い中で）のために。安倍政権・与党はまさに党利党略のために、立憲主義も法の精神も基本的人権も無視して、戦後の民主的日本を大きく変えつつあります。
 何とかしなければ、というみなさまからの悲痛な叫び声が心に響きます。あらゆる手段を講じてこの流れを変えなければなりません。拡大した格差を固定化させてはなりません。日本国憲法の本質の要でもある個人の人権が保障される社会を取り戻さなければなりません。

間違った積極的平和主義によって日本の、いや世界の平和を脅かさせてはなりません。
 これらを実現するのに最も重要なのは教育です。未来を担う子どもたちにも、等しく質の高い教育を受けることができるような教育環境の整備、現場からの教育改革に全力で邁進してまいります。
 また、今年中に予想される解散・総選挙では、数の力におごれる安倍政権に今度こそ大きなくさびを打つことができるよう、みなさまとともに全力を傾注する決意です。
 最後になりましたが、新年を迎え神教組のみなさまの今年1年間のご多幸とご発展、そして今後ともご指導を賜りますよう心から祈念申し上げて、新年の挨拶といたします。



参議院議員 那谷屋正義



那谷屋正義参議院議員の国会での質問・発言



教職員の多忙化解消について

官邸において、教職員の多忙化についてはもう限界にきているというように認識も示していただいたが、教職員の勤務時間削減等について、総務大臣の認識をうかがいたい。（2016年11月22日参議院総務委員会）
 →（高市総務大臣）時間外勤務が非常に長くなると、職員の方々の心身の健康に影響があり、士気にも悪い影響が出る。これから女性活躍や働き方改革ということをすすめていく上では非常に重要な課題だと考えている。

小学校英語について

小学校で英語を教えなくてはいけない今、リーダー養成研修が行われている。普及していくのに時間がかかるため、経費もさまざまかかり、現場の負担が増大する。ただでさえ週あたりの授業数は限界に近い中で、新しく増やすことができるのか。音楽や図工や体育といった教科の時間数を減らしてよいのだろうか。文科省は先々、こういった教科は要らないと考えているのかと感じてしまう。
 （2016年11月17日参議院文教科学委員会）

新年、明けましておめでとうございます。
 みなさんの日頃からのご支援に改めて感謝申し上げます。
 7月の参議院選挙では、みなさんのお力添えにも関わらず、「3分の2を許さない」という公約を守ることができず、安倍政権の数に物をいわせた政治、「おごり」と、そして強権的なやり方とは裏腹の「ゆるみ」によって押し進められてしまったことに心からお詫びを申し上げます。
 戦後、私たちの権利を守ってきたのは、立憲主義です。この立憲主義から安倍総理は逃亡するためにあらゆる手段を使っています。同時に、私たちもまた、広がる格差や貧困という現実から逃れようとしているのかもしれない。私たちは、この立憲主義を通じて、平和憲法が形作った平和と民主主義を未来の世代に伝えていかなければならないと決意を新たにしています。日本国憲法の危機は、戦争を放棄した九条だけではなく、両性の平等をうたった二四条にも

向けられています。私たちは、この危機に真摯に向き合わなければなりません。
 みなさんとともに、一人ひとりの希望を繋げて大きな力にしていきます。子どもたちの前に立ちはだかる壁を壊し、すべての子どもたちが、平等な地平に立って、本とペンを持って力強く未来を描ける社会をつくれるよう頑張っています。それが教職員に課せられた大きな課題であり、夢ではないでしょうか。
 本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



参議院議員 神本美恵子



神本美恵子参議院議員の国会での質問・発言



子どもの貧困対策について

相対的貧困という状況が国民に理解されず、絶対的貧困で考えられてしまう。子どもの貧困状態を改善するために正しい現状認識がすすむよう、国が率先してとりくむべきではないか。（2016年10月20日内閣委員会）
 →（加藤国務大臣）貧困についてのイメージが、食べることに事欠く厳しい絶対的貧困と、対比的な用語として相対的貧困があると考えている。相対的貧困状態にある家庭が数多くあることを、広く国民の理解が得られるようにすすめていかなくてはならない。子どもの未来応援国民運動にしっかりと取り組んでいきたい。

健康診断における色覚検査について

健診項目から削除された色覚検査を奨励するような通知により、学校で、保護者の申込書を取り検査が教職員によって行われている自治体がある。「学校で教職員が実施するものではない」と改めて通知を出していただきたい。（2016年11月22日文教科学委員会）
 →（松野文科大臣）学校における適切な対応ははかられるように周知をしてきた。これらのとりくみにより、健康診断において色覚検査による混乱が報告されていないため、新通知の発出については今のところ考えていない。
 →（神本議員）色覚検査は、教職員ではなく、学校医の健康相談において行うものだという通知を出すことを強く要望する。

二〇一七年度 教育予算要求知事交渉を実施

署名(一三三八、三四九人)寄せ書き(八一九枚)を手交

神教組は二月二〇日、神教協(神奈川県教職員組合協議会)と神教組と高教組で組織として二〇一七年度教育予算要求知事交渉を行いました。交渉に先立ち、芹沢神教協議長(神教組執行委員長)から、全組合員と連合各労組の協力を得てとりくんだ県民署名と各分会からの寄せ書きを手交し、神奈川の一人ひとりの子どもたちに豊かでゆきとどいた教育を実現するため、教育予算の拡充を知事に要請しました。



知事交渉にのぞむ神教組執行部・地区教組役員



県民署名と寄せ書きを黒岩知事に手交

神教組は、学校現場を含めた社会全体が直面している教育的な課題の解決と、未来を担う子どもたちの豊かな育ちと学びを支援するために、子どもを中心とした教育改革の実現が必要であると考えています。その観点から、教育予算の確保、充実をむけたとどくみを中心とした交渉を行います。

八月二四日、県教育長に「平成二九年度神奈川県教育施策・教育予算に関する要求書」を提出し、重点要求についての総論交渉を行いました。

二月五日・三日・四日に、総論交渉をふまえ、一月五日・三日・四日に、専門部を含む各分野にわたる、具体的な要求項目にもとづく各論交渉を行いました。

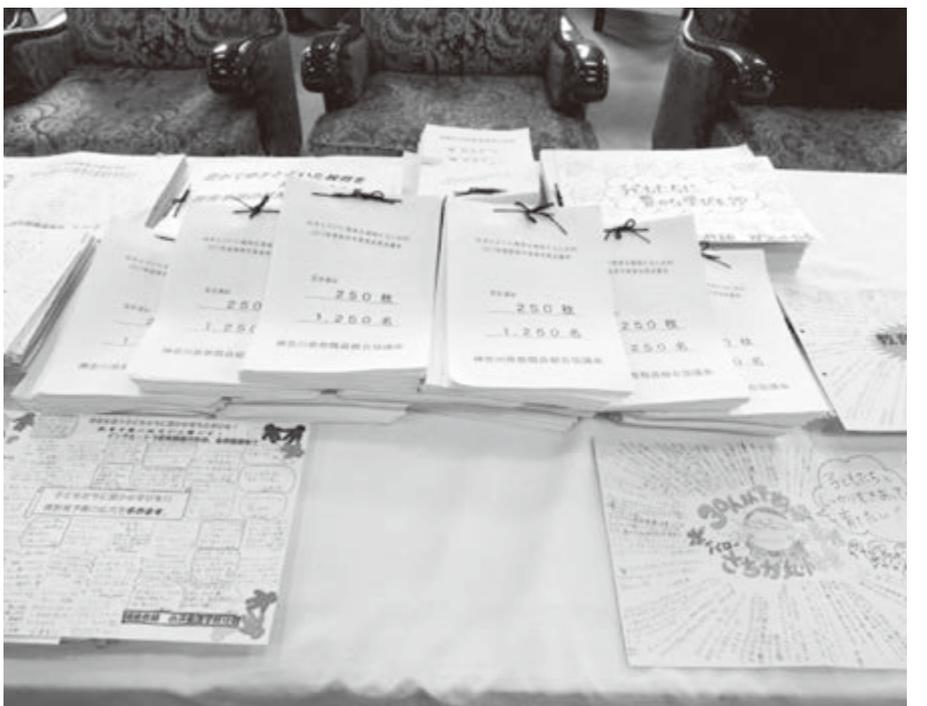
また、県教委との間で設置している教員構成問題研究会などでの協議、各課交渉・折衝を積み重ね、極めて厳しい県財政ではあるものの、教育予算にむけての確保・充実をむけてとどくみを継続強化してきました。

「豊かでゆきとどいた教育を実現するための二〇一七年度教育予算要求県民署名」に全組合員でとりくむとともに、退職者や連合各地区教組代表者が参加して行われた知事交渉で手交しました。

「豊かでゆきとどいた教育を実現するための二〇一七年度教育予算要求県民署名」に全組合員でとりくむとともに、退職者や連合各地区教組代表者が参加して行われた知事交渉で手交しました。

「豊かでゆきとどいた教育を実現するための二〇一七年度教育予算要求県民署名」に全組合員でとりくむとともに、退職者や連合各地区教組代表者が参加して行われた知事交渉で手交しました。

「豊かでゆきとどいた教育を実現するための二〇一七年度教育予算要求県民署名」に全組合員でとりくむとともに、退職者や連合各地区教組代表者が参加して行われた知事交渉で手交しました。



全県より集まった「県民署名」「寄せ書き」

「大変な数の署名の重みをしっかりと受けとめさせていただきます。一人ひとりの子どもにゆきとどいた豊かな教育を実現するという思いは、同感である。子どもたちと向き合って育てたいという寄せ書きの言葉を見て、この時間がなかなか取れないという切実な思いが伝わってくる。そのために業務を減らしていくということは大切だ。人生一〇〇歳時代があたりまえになる状況が社会的に進行している。そういう中で学校のあり方を見直す必要がある。元気な地域人材などをうまく活用するなど、地域における学校のあり方を模索していく。予算については神奈川県として六五〇億円は神奈川県という大変厳しい状況だが、みなさんの声を聞きながら何とか受けとめたい」との言葉を交わし、交渉を終りました。

発言する三浦半島地区教組北村執行副委員長

ちょっと拝見地区教組

横浜市教職員組合

東北ボランティア活動のあゆみ

横浜市教職員組合では、二〇一一年三月一日の東日本大震災以来、東北地方へのボランティア活動を継続してきました。

震災当初は、現地へ支援しに行きたくも道が寸断されて、中々足を踏み入れることができませんでした。すぐにとりくめることと言えば、義捐金の募金活動をするのでした。

街中で募金活動をしていると、現地には行けないけど何かの役に立ててください、と一言添えて募金をしてくださる方もいました。私たちと同様に、何かしたくても、今すぐ何もできない歯がゆさを感じている方がいることに気づかされました。

現地の下見などを重ねてようやく、浜教組が初めて東北ボランティアを企画したのは二〇一一年八月二日～三日でした。

この東北ボランティア活動も、二〇一六年二月一日で通算して二二回目となりました。ここ数回のボランティア活動は縁があって、気仙沼で行いました。

五年の月日が経ち、被災地の状況も大きく変化し、倒壊、浸水した家屋はきれいに撤去され、トラックやショベルカーが盛り土でかさ上げをしていました。そして、防潮堤を高くする工事も行われていました。震災直後のような荒れ果てた状況は、もう見られませんが、ただ、何もかも荒野のような土地がこれからどうなっていくのか、想像が付きませんでした。

震災当時は、まず目の前の被災物を撤去するという、目に見えてわか



りやすい活動がありました。最近では、一面、重機で整備されてきているだけに、何をすればいいのかわからない、という現実が目に見えてきました。

しかし、この気仙沼では現在も二二〇〇人の方が行方不明ということもあり、現地の気仙沼復興協会は何かしら手がかりをみつめて、遺族の元へ返したいという思いで、捜索活動を続けています。もう、生きて帰ってくるということはないと分かっている、でも、それならば遺骨だけでも、と遺族の方の気持ちに寄り添って活動を続けています。一日は月命日にあたり、毎月、捜索活動を行う日です。私たちもそこに参加させていただきます。簡単に成果の上が大変でした。やはり、手がかりになるものは見つけられず目に見える成果をあげることができませんでした。そのような中、被災地の方は、当時を振り返るのは辛いであろうにも関わらず、私たちに当時の様子を話してくれました。それは、もう誰にも辛い思いをしてほしくないという一念からでした。私たちはその思いを受け取った私たちは伝えていかなければなりません。

参加者がこの活動を通して、見て感じたことを伝えていくことで、復興へ近づけることができると感じました。それが何よりの成果でした。私たちは、ボランティア活動を通して皆さんの方々とつながりをもつことができました。その一人が第一回目のボランティアから参加していただいているのが連合宮城・塩釜地域協議会小田島事務局長です。小田島さん

には、この時以来、当時の様子を参加者にお話ししたいと思っています。浜教組の周年行事にもお招きして、復興の状況をお話ししたいと思っています。震災当時の様子は生々しく、衝撃的な話もありました。第一回目のボランティアの時に話していただいた言葉で特に印象に残っているのが「復興の道のりはまだまだです。五、六年での復興は難しいけれど、一〇年たつた被災地にきてください。」という言葉です。現在、ちょうど折り返しの五年が過ぎようとしています。被災地の方々が一〇年を見込んでがんばっている中、私たちが五年でモチベーションを下げている場合ではありません。

気仙沼復興協会の代表の方からもこんな言葉をいただきました。「私たちが伝える数は限りがある。しかし教職員のみならずは、目の前にいる皆さんの子どもたちにも伝えることができる。それが素晴らしい。」この言葉で私たち教職員が、ボランティアを続ける意味を再確認することができました。

浜教組では今後も「伝えることつながること 続けること」を大切にボランティア活動を行っていきます。

西湘地区教職員組合

西教組のとりくみ

西教組ではこの数年、分會での多忙化解消のとりくみと並行して組織内業務の精選に力を入れてきました。一方で組織内業務が減少することで、組合活動に参加する機会が減ってしまわないうように、特に若年層組合員を対象としたとりくみに力を入れています。また、例年八月に行ってきた西湘地区教育文化研究会主催の「憲法平和学習会」を、今年度は「平和教育学習会」として八月二四日に西湘地区教育会館にて実施しました。実践をもとに、現場ですぐに使えるような内容を提案することとを柱として行い、分會から青年層組合員に参加してもらいました。また、実践提案を募集し、三人の提案がありました。

現場で実践できる平和教育のあり方について学習を深め、平和教育のとりくみについて継承していくことと、新たに実践を創造していくことで運動をすすめることができました。

○平和教育学習会のとりくみ

戦争体験を語ることでできる世代が少なくなる中、平和教育のとりくみが重要となってきました。西教組では、毎年七月に「七・

五全県平和教育の日」として活動についても学習しました。また「組合員にとって参加しやすい活動とは？」等のテーマでグループ協議を行い、組合活動への学習を深めました。また、こうした活動を継続していく必要性についても提起されました。

青年層組合員が運動の主体となる手となりつつある中で運動の意義の継承が課題となっている現状をふまえて、今後も青年層組合員の組織化と学習の機会を計画的に設定していくことが求められています。

組合の活動という機関会議や各種の動員というものが大半を占めてきている現状がありますが、学習の場や職場を越えたつながりの場としての「組合」ともなっているように、西教組では今後とりくみをすすめることで運動の前進をはかっていきたいと考えています。

各単組の紹介から始まり、自分たちの所属する組合のとりくみについて確認するとともに、他の組合の



○他種別交流会のとりくみ
西教組は、西湘地区で展開する他労組（NEC労組・カネボウ労組・労金と連携し、組合運動の課題と意義について共有し、それぞれの運動を発展させていくことをめざして八月四日に他種別青年交流会を行いました。西教組の参加は、分會からの参加を含め九人でした。



活動についても学習しました。また「組合員にとって参加しやすい活動とは？」等のテーマでグループ協議を行い、組合活動への学習を深めました。また、こうした活動を継続していく必要性についても提起されました。

青年層組合員が運動の主体となる手となりつつある中で運動の意義の継承が課題となっている現状をふまえて、今後も青年層組合員の組織化と学習の機会を計画的に設定していくことが求められています。

みんなしんむすぶ 教職員共済

謹賀新年

本年もよろしくお願ひいたします。
「まさか」のときこそ頼りにされる存在として。

教職員共済は、教職員のみなさんの福利厚生の一助として、在職中はもちろん、退職後までみなさんの生活をサポートし、よりよい暮らしができるようお手伝ひいたします。

新規加入時のご相談や、各種共済の内容についてのご説明、すでに加入をしている共済の共済金請求について等、ご不明点がございましたら、お気軽に下記までお問い合わせください。

●初めて共済をご利用になる際には出資金100円を払込み（加入時1回のみ）、教職員共済の組合員となる必要があります。

各種共済で業務中のケガや事故から、プライベートまで保障します！

総合共済 ● **医療共済** ● **年金共済**
団体生命共済 ● **交通災害共済**
新・終身共済 ● **自動車共済** ● **車両共済**
火災共済 & **自然災害共済**

ご不明な点がございましたら、
お気軽にお問い合わせください

厚生労働省認可
教職員共済生活協同組合 神奈川県事業所
 〒220-0053 横浜市西区藤棚町2-197 神奈川県教育会館内

TEL 045-242-6660
 FAX 045-242-3881